

# 「東北復興支援 里浜の生態系再生のために」 “アカプラ”で宮城県名取市関上地区の海浜植物の苗づくり

2022年7月14日（木）

東日本大震災から11年余り。津波で大きな被害を受けた東北の海岸では海辺の花々（海浜植物）も徐々に回復してきています。東北の海浜植物の保全活動をしている「北の里浜 花のかけはしネットワーク」では、東北各地で海浜植物の種子を集め、それを育て、再び採取地に戻してコンクリートの防潮堤を砂丘に育てる活動をしています。KDDIは、今年で5回目となる里浜の生態系再生に向けた海浜植物の種まき、苗植え替えイベントを7月14日（木）に札幌市北3条広場アカプラで実施しました。HTBはその活動に賛同し、雪印種苗、リコージャパン、北海道新聞、電通北海道、札幌駅前通まちづくりと共に参加しました。総勢24名の参加者は、甚大被災地の一つ、宮城県名取市関上（ゆりあげ）地区で採取したハマボウフウ、ハマエンドウ、コウボウムギ、コウボウシバの4種類の苗を育苗ポットに一つひとつ丁寧に植えていました。また、海浜で採取したハマヒルガオの種まきも行いました。合わせて350 になった苗は雪印種苗が道内圃場などで育て、現地の方々と共に、再び採取地に戻して海から陸へつながる生態系の再生と地域の遺産資源保全に役立てられることになっています。

